

## 伝通院

大森 海太

そこまでやるならいっそ墓も伝通院に移したらどうかと言われるかもしれないが、宗派が違つし、そもそもいくら取られるか分かつたもんじゃない。

徳川家康の生母、於大の方は一六〇二年伏見城で逝去、遺体は江戸に運ばれて荼毘に付され、江戸城の西北、小石川台地にある浄土宗の寺に葬られた。寺は於大の方の法名にちなんで伝通院と呼ばれた。

以降伝通院は増上寺に次ぐ徳川家の菩提寺となり、千姫（二代秀忠の長女）や亀松（三代家光の次男）など徳川家ゆかりの人たちが祀られている。

春日通から続く山門と本堂は先の大戦で焼失したが戦後再建され、そのうしろの数千坪におよぶ墓地には徳川の人たちの大きな墓碑のほか、明治以降一般にも開放されたため、佐藤春夫や柴田錬三郎、最近では堺屋太一の墓なども建っている。

墓地の奥には境界の木立が植えられており、その木々の向こうに見える六階建ての小さなマンションが、このたび私が引越してきた寓居である。

我が家（四階）のベランダからは、木々の間にお墓が見え、その向こうには本堂の大伽藍を望む。日曜日などは法要が行われているのか、鐘の音が聞こえてきたりする。

ウチの墓はもともと千葉県八柱の都営墓地にあったが、遠いので二年前に文京区白山下の円乗寺（天台宗）に移した。八百屋お七を祀つてある寺で、今のマンションから歩いて二十分くらいである。

最近はやりの都会型墓所というやつで、立体倉庫のようなところに納められているお骨の箱がボタンを押すと祭壇の前に運ばれてきて、お参りがすんだあともう一回ボタンを押すと元に戻るといふ仕掛けである。

近いのが取りえで、私もいずれお世話になるだろうが、ここなら子供や孫たちもたまには来てくれるだろう。

話は墓地裏のマンションに戻る。もとの一軒家から狭いところに引越したので、永年の生活のオリの整理（断捨離）には心身ともに疲れたが、シンプルライフは老夫婦にとって快適ではある。

これがまあ終の棲家か裏長屋